

九州 新造船撮影行

2023-10-13 池田良穂

九州の最近の新造客船を調べたところ、平戸、長崎、五島、天草、鹿児島に多数いることが分かりました。まず長崎空港に飛んで平戸、唐津、長崎、五島、天草を廻り、日を改めて鹿児島にでかけることにしました。

長崎空港でレンタカーを借りて、まず平戸に行き新造船「フェリー度島」を撮影、さらに北上して佐賀県の唐津で新造船「ドリームラインたかしま」の出港を撮影することができました。その後長崎まで移動して、翌朝、長崎港の大波止で新造船「俊寛」を撮影、続いてフェリー1便「万葉」に乗船して五島列島の福江まで行き、港に停泊する新造船「シーガル」と「おうしまⅡ」を撮影することができました。福江からはジェットフォイル「ペがさす」で長崎に戻りました。海上は波が高くなっていますが、さすがにジェットフォイルは揺れませんでした。

翌朝、長崎のホテルを出て、島原半島の南端の口之津港から「フェリーくちのつ」に乗船して、天草本島の鬼池港まで30分の航海で到着。天草本島内の中田港までドライブして、新造船「ロザリオ・カーム」の入出港を見ることができました。鬼池港まで戻り、「フェリーあまくさⅡ」で口之津に上陸。長崎空港までの途中に、島原外港に寄って「オーシャンアロー」と「フェリーくまもと」の入港を撮影することができ、長崎空港から飛行機で大阪に戻りました。

平戸港



平戸港と沖合の度島(たくしま)とをつなぐ航路の新造船「フェリー度島」です。同じ平戸港からの大島航路は平戸市栄なのに対して、度島航路は竹山運輸が運航する民間航路となっています。



平戸島では、大島航路の市営船「フェリーおおしま」の出港も撮影することができました。

唐津港



唐津城の近くの棧橋と、唐津湾内に浮かぶ高島を結ぶ航路は、高島の漁業組合が運航しています。これまで就航していた「ニューたかしま」に替わった新造船「ドリームラインたかしま」の出港風景です。



唐津市内の棧橋に停泊中の「ドリームラインたかしま」です。



高島へは定期船だけでなく水上タクシーも運航されています。

長崎



長崎市内の大波止から、伊王島と高島へ行く野母商船の新造高速旅客船「俊寛」です。伊王島は橋によって繋がっていますが、高島は離島です。姉妹船の「鷹巣」と2隻で運航されています。



大波止の離島航路客船棧橋に並ぶ小型高速旅客船群です。手前から五島航路の「ドンライア V」、「俊寛」、「鷹巣」です。



長崎の旅客船ターミナル2階の待合室から見た離島航路棧橋で、手前にジェットfoil「ペがさす」と、単胴高速旅客船「シーエンジェル」が出港準備中でした。



長崎から九州商船の「万葉」に乗って五島に向いました。船尾に NAIKAI の文字が鮮やかに描かれています。造船所の名前を船体のどこかに刻むのは素晴らしいですね。



三菱重工で建造中の自衛艦の姿を見ることができました。



長崎港を出ると香焼のドックが見えてきました。三菱重工から大島造船に所有者が変わり、クレーンの上の三菱のマークが消されていました。

福江(五島)



下五島の福江港と久賀島を結ぶ木口汽船の新造高速旅客船「シーガル」です。観光船としても使用されるため、海底が覗けるガラス窓が水面下についています。



下五島の福江港と、赤島、黄島を結ぶ新造高速旅客船「おうしま II」です。運航は黄島海運です。



福江港の入口で、長崎に戻るジェットフォイルを待つ間、シップウォッチングを満喫しました。高速旅客船「ニューたいうよう」の入港風景です。



出港していく「万葉」を見送りました。



出港するカーフェリー「オーシャン」です。



出港する「ソレイユ」です。



出港する「シーガル」です。



入港するジェットフォイル「ペガサス」のダイナミックな姿です。

天草



天草本島の中田港と、獅子島の片側港、長島の諸浦港を結ぶ航路を運航する天長フェリーの最新フェリー「ロザリオ・カーム」で、中田港で着岸・荷役中の姿です。どちら向きにも走れる両頭船です。



天草には、島原半島の南端近くの口之津港から「フェリーくちのつ」で渡りました。



僚船の「フェリーあまくさII」と「フェリーくちのつ」の2隻で、ほぼ1時間おきに南島原の口之津と天草本島の鬼池の間を繋いでいます。



天草の本渡港に繋がれていた「栄久丸」です。



島原外港では、熊本フェリーの「オーシャンアロー」の入港を見ることができました。



熊本港と島原外港を結ぶ九州商船の「フェリーくまもと」です。

鹿児島

鹿児島には大阪から飛行機で日帰り、新造フェリー「フェリー第十一おおすみ」の写真の撮影に出かけました。ちょうど国体期間中だったため空港でのレンタカーの予約がとれずに、バスで鹿児島中央駅まで行き、そこから同船の発着港である鴨池港に向かいました。いわさきコーポレーションの鴨池・垂水フェリー(元南海郵船)の運航で、約40分で錦江湾(鹿児島湾)を横断しています。

鴨池港に着くと「フェリー第十一おおすみ」が停泊していました。窓口で聞くと、本日の運航船は、フェリー「第七」「第八」「第十」おおすみの3隻で、「フェリー第十一おおすみ」は動かないことがわかりました。会誌の新造船紹介のページでは、できるだけ異なるアングルからの写真を複数枚掲載することにしているので、係船されている同船の後ろからの写真を撮影するために、「フェリー第七おおすみ」に垂水まで乗船。帰りは「第八」でした。当日、桜島の噴火が何度もあり、噴煙が鴨池港の方角に流れており、撮影した写真には青空と噴煙がツートンカラーになっていました。



鴨池港に係船される新造フェリー「フェリー第十一おおすみ」です。白とマゼンダピンクのツートンです。国体中には天皇陛下を乗せるお召し船としても使われたようです。



垂水(たるみず)港に停泊する「フェリー第八おおすみ」(手前)と、入港する僚船「フェリー第七おおすみ」です。



「フェリー第十おおすみ」と噴火する桜島です。「フェリー第七おおすみ」の船上からの撮影です。